

令和7年（2025年）1月23日外部評価実施
服部地域包括支援センター（中西部圏域）

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2024年12月1日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：55,429人 （前年12月1日時点 55,591人）
 高齢者人口：14,822人 （前年12月1日時点 14,888人）
 高齢化率：26.74% （前年12月1日時点 26.78%）

【圏域の地域特性】

服部圏域は豊中市の中西部に位置しており豊島、中豊島、豊島北、豊島西、原田の5校区で構成されています。公共交通機関としては阪急バスの他、阪急宝塚線の服部天神駅、曽根駅が最寄り駅となります。曽根駅周辺には大型スーパー等商店が多数あり利便性の高い地域ですが駅西側の原田地区は急坂も多く、介護が必要な状況になると生活に苦慮することも多い地域です。

服部天神駅周辺はほぼ平地で、新旧多数の商店も活気があり、日中も人の流れは多い地区です。他方で古い文化住宅も多く、高齢世帯、単身世帯も多い地域です。

阪急宝塚線から離れている豊島西地区、原田地区では、空港南部地域で、工場が多く、買い物できるところもスーパーマーケットはなく個人商店も数か所しかありません。医療機関も少なく、交通の便も良くありません。圏域全体として、賃貸住宅（アパート・文化住宅）で暮らす高齢者も多く、建て替えなど、住まいに関する困りごとも多い圏域でもあります。

【医療・介護資源】

中西部は医療機関や介護保険事業所が駅前中心に多くありますが、豊島西地区は少なく、地区によっての偏りが強くみられます。

取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

日頃より3職種が密に情報共有、連携を取りながら相談支援にあたっています。当センターには認知症初期集中支援チームを併設している以外にも、同法人のさわ病院には認知症疾患医療センターがあるため連携を取りやすく、素早い対応をおこなうことができます。また品質、環境についてISO認証を取得しており、提供サービスや教育については常にPDCAを回しながら業務に取り組んでいます。

【特に力を入れて活動している点】

圏域内のオレンジカフェに積極的に参加し運営をサポートするだけでなく、認知症疾患医療センター等と連携し、初めてオレンジカフェを主催しています。作業療法士や精神保健福祉士が参加することで幅広い相談に対応できるようになり、当事者、家族参加につながりました。

【活動の中での課題やその解決策】

圏域内でオレンジカフェの周知が十分に進んでいるとは言えず、引き続き広報活動を継続していきます。

総評

【特徴的な取組内容】

- 認知症疾患医療センター等とともにオレンジカフェを主催しています。当事者、家族の参加につながった他、作業療法士や精神保健福祉士の参加によって、専門的な知識に基づく情報提供や相談等の対応が行われています。
- 小学校の児童を対象にしたキッズ認知サポは、圏域の介護事業者と協働で多世代の認知症サポーター養成、普及啓発に取り組まれています。
- 地域アセスメントでは、校区毎に担当者を配置し、地域ニーズや課題の把握に取り組まれています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- 介護予防ケアマネジメントの強化では、研修や勉強会の成果を客観的に捉えることができる内容の拡充が望まれます。